

藍住南小学校で河川環境学習を開催しました。

藍住南小学校4年生の児童を対象に、「汚水のお話」で汚水処理施設や汚水がきれいになるしくみ等について学んだ後、「正法寺川をきれいにするための取り組み」の話があり、身近な川的生活排水の水質検査、透視度検査を体験しました。最後に藍住町の下水道についての話があり、みんなが水をきれいにする気持ちを持つ事の大切さを学びました。

【実施概要】

日 時：平成23年10月5日（水）9：30～11：30

場 所：藍住南小学校 合同教室

参加者：藍住小学校 4年生 3クラス 121名

徳島県 河川整備課 1名

徳島県 下水環境課 2名

藍住町 下水道課 2名

フジタ建設コンサルタント 3名

内 容：1 汚水のお話 徳島県 下水環境課
2 正法寺川をきれいにするための取り組み 徳島県 河川整備課
3 水の汚れの原因（水質実験 パックテスト） フジタ建設コンサルタント
4 下水処理施設について 藍住町 下水道課

感 想：藍住町を流れる正法寺川のことがよくわかりました。

川の水をきれいにする施設や、町の人が使った水を汚水処理場でたくさんの微生物がきれいにしてきていることを知って、とても驚きました。

また、食べ残したものや洗剤が川を汚しているので気をつけていきたいと思いました。

学習したことを家の人に話したいと思います。

【活動状況】

○「汚水のお話」

最初に[水のゆくえ]として一度使った水は自分たちのもとへ返ってくるという話を聞いた後、藍住町の人が1日に使う水の量が1007ℓ、25mプール33杯分になることや、藍住町の浄水場、汚水処理施設（松茂町）、汚水の処理のしくみ、いろいろな微生物が水をきれいに行っていることを熱心に学びました。



マンホールと汚水管の工事の写真を見たり、下水管のサンプルやマンホールのフタの模型を見て学びました。「なぜマンホールのフタが丸いのか」という質問に「落ちないようにするため」と、人を守る構造を理解している児童もいました



『マンホールのフタ実験』

○、△、□のうちどれが落ちないかという実験をして、○の形をしたフタだけが落ちないということがわかりました。



『トイレトペーパー等を使った実験』

紙は水に流してもいいかということで、トイレトペーパー・新聞紙・ティッシュペーパーを使って実験をしました。結果は、トイレトペーパーだけが水に溶けました。

○「正法寺川をきれいにするための取り組み」



正法寺川は上流・中流・下流において流れが穏やかであり、そのために水が汚れやすいこと、また、徳島県の人口は減少しているが、藍住町は増え続けていることも川がとても汚れている原因であることを学びました。そして正法寺川にも様々な生物が生息していることや、川の水をきれいにする取り組み、住民と県がともに取り組むことが大切であることを学びました。

○「水の汚れの原因」水質実験（パックテスト、透視度測定）



パックテストで、正法寺川と吉野川の水、生活排水を身近な食品（8種類）で作り、COD（化学的酸素要求量）を測定することにより、どれが最も水を汚す原因となるのかを調べました。



結果は、正法寺川 4 吉野川 2 米のとぎ汁 20 牛乳 50 しょうゆ 100 みそ汁 50 ケチャップ 100 ラーメンのスープ 10 乳酸飲料 100 焼き肉のタレ 100 となりました。

透視度測定では、正法寺川→35cm 吉野川→110cm となり、数値の大きな違いにより、パックテストの測定結果と合わせて川の汚れを実感し、水質浄化のために自分たちができることを学びました。

○汚水処理施設について

正法寺川は徳島県でも大変汚れた川のひとつであり、そのために藍住町の下水道工事が正法寺川周辺から行われたこと、また埋められたパイプは16kmにもなることを学びました。

そして、環境学習で学んだことを家の人や周りの人に話していくことにより、たくさんの人が川をきれいにしようという気持ちを持つことが大切であるという話がありました。



○質疑



「汚水管は地震でこわれたりしないのですか」、「微生物は何種類いるのですか」、「どうして微生物がゴミを食べるのがわかったのですか」などの活発な質問が出ていました。また、熱心にメモを取る姿が見られるなど、子供達の知的好奇心や環境学習に対する意欲が感じられました。